

会員の皆様へ

新型コロナウイルス感染症の拡大に対処する奈良県知事の会見は、会見後に奈良県ホームページに動画と会見資料が配信されます。けれども、字幕や文字によるサポートがありません。

奈良県中途失聴・難聴者協会の賛助会員のご尽力により、文字起こし文をつけることができました。内容を忠実に文字に変えてもらっていますが、マイクの調整具合などの関係で、聞き取りにくい部分があったり、話し手が、曖昧な単語を使ったり、指示語を多用したりすることで、聞こえる人でも、内容の理解がむずかしい部分もあります。

そのような部分は、文字起こし文も読みにくくなっていますが、現時点でのできる限りの対応でありますことをご了承ください。

0～15分04秒

司会／おはようございます。

ただいまより、知事定例記者会見を始めます。

本日は発表案件がないので、コロナ関連の質問から受けます。

それでは、質問のある人は挙手をお願いします。

記者／奈良テレビのニシムラです。

お盆休みを控えているが、奈良へ帰って来る人、奈良から帰省を考えている人がいると思います。

お盆休みの帰省について、どのようにお考えですか。

知事／お盆休みと、Go To（トラベルキャンペーン）が関係するので、

（2つを）合わせた考え方を述べたいと思います。

帰省については、気をつけて故郷へお帰りくださいという気持ちです。

お盆とは、故郷へ帰るのが目的。

ご先祖様にお会いするのが元の目的だったと思います。

お墓参り、故郷の社寺へのお参り、自然を楽しむことが、お盆の期間の本来の日本の風習だったと思います。

丁稚さんは休みがなかったけれど、お盆は故郷へ帰っていた。

当時はほかに行く所がなかったが、今は行くところがある。

しかし、今も故郷へお帰りなさい。

故郷へ帰られるときに、特に東京から帰って来られると感染者の多い所なので、心配される人もいます。

ご家族との接触には、気をつけてほしいと思います。

故郷におじいさん、おばあさんがおられるお家も多いと思う。

家庭内接触のパターンもわかってきている。

帰省されても、気をつけるとおじいさん、おばあさんとの接触感染もなくなると思います。

そんな生活が習慣化されていないので、ことさら気をつけていただきたい。

それさえ気をつければ、故郷へ帰るのは望ましいことだと私は思います。

記者／ありがとうございます。

Go To キャンペーンでどこかへ行くのも、気をつけてほしいというお考えですか。

知事／故郷だけでなく、お盆を利用して旅行に行く人も多いし、そんな風習になってきています。

今までも言ってきたが、ゴーツーの趣旨には基本的に賛成しています。

東京も除外なしが、望ましいと思っていました。

コロナは、長く周りに漂っている様相です。

すぐにはなくなる相手かと思います。

健康のためにも、社会活動を止めるわけにはいかない。

生活と折り合いをつける知恵が必要だと思います。

いろんな考え方の人がいるでしょうが、知恵の一環は、指導者は特にパニックにならないようにということ。

あれもよい、これもよいとならないのが、危機管理の要諦だと学んできました。

司令官は、静かに観察するのが第一の義務だと学んできました。

観察し、気をつけながら、健康のためにものびのびと行動していただくのが、社会行動のあり方だと思います。

望まないけれど長い付き合いになるかもしれないコロナとの関係では、社会行動では知恵を出すことだと思います。

自粛には、いろんな意見があると思う。

自粛を強要すると、素直に従順に従ってくださるという、日本独特の傾向がありました。

しかし最近の傾向をみていると、自粛にあきる、反発する、表向き自粛して目につかないところで発散するなどの傾向が出ているように見受けられます。

これは、日本独特かもしれませぬ。

私の説が正しいかどうかかわからないが、社会行動科学のような研究が必要かと思います。

外国での動向、日本独特、また、東アジアと傾向が違うと思うだろうが、社会行動科学的なコロナとの折り合いの研究が必要ではないかと思っています。

全面自粛には、そんな副作用もあるのかなと思いはじめています。

いろんな考えがあると思うので、私が思っていることが正しいかどうかわかりませんが、自粛はなるべく限定してお願いするのがよいと思っています。

県では、感染経路の類型を観察するようにしています。

感染経路の類型を観察して、それがわかれば感染防止策も限定してわかってくる。

この類型にはこのように対応すればよいと、奨励できるわけです。

とにかく外出しないでというのではなく、外出する場合は感染しやすい場所に行かないようにする。

友人と会食する場合も、感染しない会食パターンをするように。

(感染するパターンが) だんだんわかってきています。
感染の類型を観察することで、我々は知恵がついてきていると思ってきています。
感染類型を、観察し続けてきました。
累計ごとの防止策を奨励して、それが習慣化されると、感染のリスクが下がると言ってきました。
家庭内、友人との会食、職場での感染など、これまでに発生した感染の類型の観察結果を申し述べてきました。
観光のようなものを自粛するべきか、勧めるべきかと二分するのではなく、気をつけて Go To へも行ってくださいということです。
うつさないよう、うつらないよう気をつけて Go To してくださいねというのが、今までの気持ちです。
今言ったことを、これまでやってきました。
県の3つの対処方針です。
①感染経路の類型を明確化する
②類型に応じて明確な注意をする
③PCR 検査は「うつさない」ため
早く見つけて隔離

最初は重症化予防が目的だったが、(今は) うつさないため。
感染が分かった人は、とにかくうつさないでください。
若者が感染するのは、自粛への反発や発散があるかもしれないが、そのような行動はできるだけ差し控えるのが望ましい。
とりわけ、うつさないようにすることが、より望ましいと思います。
うつさないために、感染したら早く見つけて隔離。
この3つを県の大きな方針にしています。
まだ拡散が続いているが、防御パターンを発見し着実に実行するしか、コロナさんとの戦い方はないのではというのが、今のところの観察です。
昔からあった一撃論で、一撃したり脅かしたりすれば退散する敵ではありませんから。
防御、防御となると思うので、県ではこのようなことを実行に移しています。
このやり方が、効果があることを望んでいます。
長くなったが、以上です。

記者／ありがとうございます。
あと一点。
全面自粛には副作用があると言われたが、他県では、独自の緊急事態宣言を出している所もあります。
そういうことは、考えておられないのですか。

知事／今の考えでは、宣言はありません。

記者／ありがとうございます。

記者／毎日新聞のクボです。

昨日県内の薬局・薬店を廻ってみました。

やはり、うがい薬が全くなく、売り切れの貼り紙ばかりを目にしました。

これは3日前だったか、大阪府知事が（コロナに）効果があるのではないかというようなことを言われたことを受けてのこと。

急激に買いに来る人が増えたと、どの店も言っていました。

明確な根拠がないと言われている中、大阪府知事がこの発信をしたことについて、知事はどう思われますか。

知事／なぜ、うがい薬がなくなったの？

記者／吉村知事の発言を受けて、買いに来る人が殺到したと言ってますね。

知事／うがい薬を買いなさいとおっしゃったの？

記者／うがい薬に効果があると（言われた）。

知事／そう。あまり知らない。

記者／知らない？

知事／知らなかったですよ。

記者／知らないんですか。

知事／知らなかった。

記者／う～～ん。答えようがない（ということですか）。

知事／知らないと、何もないから。

最近は何もないのが身を守る。

いや、知らないけど。

知らなかった。

だから何とも言えません。

記者／知事は、うがい薬を使っていますか。

知事／風邪をひいたら、使いますけどね。

喉が弱いから。

喉が痛むときはうがい薬を使います。

記者／吉村知事が、特定の成分が入ったうがい薬が、重症化を防ぐのに効果があるのではないかと発表したことをご存知ないのですか。

知事／知らない。

記者／知らない、ええ～。

知事／毎日新聞を見ないといけないですね。

記者／いやいや、ニュースが全てやっていますけどね。

知事／知らなかった。

記者／知らなかった…。

知事／ちょっと、陳情に行っていましたので。

記者／じゃ、もう結構です。

知事／東京に行くと、あまり関西のニュース流れないのかなあ。

テレビも見なかったし、新聞も見なかったし。

はい、知りません。

教えていただいてありがとうございます。

31分39秒～44分05秒

記者／産経新聞のクワジマです。

コロナに戻って恐縮です。

先日、奈良県内でも、発表主体は奈良市だったが、夜の街感染が疑われる事案がついに出ました。

先ほど知事のお話で、もし仮に自粛を要請するとしても限定的におこないたいというお話がありました。

もし今後、夜の街感染が広がったり、感染者が確認できるとなった場合、夜のお店に対して、限定的な自粛を要請をするなどの考えがありますか。

知事／今日帰ってきてから、奈良市の事例を聞きました。
夜の街感染かどうかは、ちょっとわからないですね。
感染した人がたまたま寄って、そこでうつしたかもしれません。
もう少し精査がいると思います。
夜の街感染とは、感染予防がされていないパターンと、感染しやすい遊興パターンとがある。
夜遅くまで、接触型の遊興になるので。
その2つが、よくわかっていない。
夜の街で感染したという定義は、元から曖昧だと思っていました。
その言葉をたまたま使っただけです。
夜の街で感染したといっても、感染した人が感染していない人と一緒にその場所に行っただけなら、会食感染になる。
その場所が感染しやすい場所という認定ができるかどうかです。
感染しやすい環境であれば、休業や改善自粛をお願いします。
もう1つの手法は、そういう場所があるので、気をつけて行かないようにする。
その場所でうつるということはないです。
人からうつるのです。
その場所がなくなっても、他でうつることがある。
友人との感染と、お客さんと相手との感染とは、パターンが違うと思います。
奈良の場合は、お客さんが持ち込んでうつしたかもしれません。
店が危ないかどうかは、すぐにはわからない。
さっき聞いたばかりなので、夜の街という定義が短絡的だった。
そのような感染しやすい場所は、奈良には無いという意味で申し上げました。
いい定義がないのです。
例えば、大阪のように、24時間1000人も集まるような場所は、奈良にはない。
夜開いている飲食店や接触されるバーはありますが、用心されているところと、用心されていないところでは、リスクも違うと思います。
だから、感染場所や感染経路を分析しないといけない。
軽々に言うのは、いつも控えています。

記者／以前から知事は、情報提供という形で安全を呼びかけると言っておられます。
情報提供という意味で、例えば、最近地方公務員や国家公務員の感染も出てきています。
それがどこの所属なのか、基本的に県は明らかにされていません。
所属先が発表していても、県では、(所属は)ここですという明言はしないというスタンスをとられていると思います。
そういう場合、情報公開という点で、県から発信していくありかたはどう(思われる)でしょうか。

知事／感染経路の類型をできるだけ情報公開して、気をつけてくださいと呼びかけています。

感染者や濃厚接触者は、個人情報とどのように調和するかが課題です。

国家公務員でも県会議員でも中央公務員でも同じです。

なぜ折り合いが大事かという、日本の風習として、感染した人に SNS などでのアタックがいきます。

マスコミのように表に出さなくても、その情報を見て特定され、裏からアタックされることがあります。

人を攻撃しないように、人権が大事ですといつも最後に言っています。

それは、そういう事例で、気を病まれる方がおられるからです。

第2次被害、第3次被害をなくすためです。

また、情報公開をする公の利益とのバランスを図ることも大事だと思っています。

バランスを図りながら情報公開することによって、用心をしやすいようにと思っています。

情報公開は、類型、やりかた、注意の方法を公開すればいい。

誰がということに興味があると思いますが、興味につられて情報公開してはいけないと、私は基本的に思っています。

興味につられて週刊誌などはよく書かれますが、公のマスメディアは、そういうことはないです。

気持ちの面かもしれないが、世の中の役に立つような情報を、積極的に公開していくという姿勢が大事かと思っています。

記者／もちろん、個人情報の保護は大事なので、個人を特定する情報は公開する必要はないと思います。

例えば、市町村は、うちで出ましたということを基本的に公表されています。

一方で県は、市町村で公表された後も、県で発表したこの事例だというリンクを認めていません。

これは県と各市町村の、発表の基準が違うということになるのでしょうか。

職員／県も、感染者の方が、どこの市町村にお住まいかを公表しています。

おそらくおっしゃっているのは、市町村が、たとえば、感染者が出た小学校を具体的に発表した場合のことではないでしょうか。

県の方の発表は、あくまでもその感染者がどの年代でどこにお住まいで、どういう職業かです。小学校の場合は、生徒ということになります。

統一した見解で、一定のラインで情報を公表しています。

紐付けて公表すべきだというご意見だと思いますが、県が発表するものは個人情報保護ということもあるので、ある一定のラインで発表させていただきたいと、担当としては考えています。

知事／私にも毎日発表が届きますが、市町村名は書いてあったと思うので、質問の趣旨がわからなかったのです。

発表は、感染経路も推定して出すことが多い。

市町村別に、大阪での会食ありとか、その日のうちにわかってくるようになっていきます。
例えば、生駒の学生さん、生駒の勤務者、大阪での会食の経験ありとか。
一番多いケースは、大阪での会食ということがわかってきています。
誰がと言わなくても、そういうケースを用心しなさいと言うには十分な情報だと思います。
生駒の人は用心しなさいと言わなくても、生駒の人は大阪に行きやすいということで、(用心しないといけないと)わかる。
北の方に偏っているので、市町村別の分析もしたいと思います。
全て、市町村・年代・性別を公開しています。
それと、生活ステータスも。
学生とか会社員とかも言っているので、その後の注意を促すためには、これで十分だと思います。
大事なのは、どういうふうにして感染したのかということです。
その人のケースを追求するのではなく、そういう類型を集めて、こういうケースが何名か出ているから気をつけましょうと言う。
気をつけるパターンがだんだん詳細になっているのが、奈良県の実情です。
名前が全くわからなくても大丈夫です。
学校の名前もわからなくても大丈夫です。
学校で生徒がうつした・うつされたというケースがあれば、全部の学校で注意しましょうと言えばいいと思い、そう判断しています。

記者／先日、市町村の施設で感染がありました。
当該の市は、その施設を訪れる市民や県民の方がいらっしゃるので発表されました。
一方で、県ではそういう情報が公開されていませんでした。
県民に対する安全安心のために、どこまで情報公開するかが、市町村と県とで基準が違うのかなと思って質問しました。

知事／県の考え方を尋ねられたので申し上げました。
市町村とどう違うかは、あまり承知していません。
みなさんから見れば、違うように見えるケースもあるということですね。
県の考え方は、類型発見のために市町村名を公表しています。
それをどのように市町村で受けるか、県民の方がどう受けるかは、次の話になるかと思います。
ちょっと質問の趣旨がよくわからなかったので失礼しました。